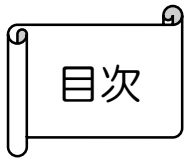


# 福祉学習ガイドブック

社会福祉法人 小諸市社会福祉協議会

〒384-0006 長野県小諸市与良町6丁目5番1号

Tel 0267-25-7337 Fax 0267-25-5332



1. 小諸市社会福祉協議会とは
2. 福祉学習とは
3. 福祉学習実施までの流れ
4. 体験学習実施例
5. 体験者の声
6. 福祉体験グッズ紹介
7. 地域福祉活動計画



## 小諸市社会福祉協議会とは



小諸市社会福祉協議会（以下、社協）は、社会福祉法で「地域福祉を推進することを目的とする団体」として位置づけられています。この「地域福祉の推進」は、「誰もが幸せに暮らせる地域社会の仕組みづくり」と言い換えることができます。その活動の一つとして、学校を含めた地域のさまざまな場面で進められる福祉学習を支援しています。

### ～はじめに～

小諸市内の小・中学校（以下、各校）で、福祉学習推進のための役立つ情報を提供できればと思い、このガイドブックを作成しました。「なぜ福祉学習が必要なのか？」「福祉学習を通じて何を学び、何を伝えるのか？」について、社協なりの提案をしたいと思います。

大切なことは、学校関係者・地域住民・児童・生徒が一緒になって、同じ地域で生活する一人暮らしの高齢者や障がい者の存在を知り、思いや悩みを共有することです。そこから、さまざまな生活や生き方があることに気づき、福祉問題、福祉活動の意味や役割に関心をもつことで、思いやりの心が生まれるのだと思います。こうした「思いやりの心」について、児童・生徒一人ひとりが主体的に考えられるきっかけを作ることが、私たちの考える福祉学習です。

## 福祉学習とは



### 『みんなの ふ（ふだんの） く（くらしの） し（しあわせ）を考えるための学習』

福祉学習とは、以下の5つの力を引き出すための取り組みです。

- ①人や自分を思いやる力
- ②違いや自分を認める力
- ③自分の思いや考えを人に伝える力
- ④事実を受け止める力
- ⑤自分で考えて行動する力

ところが・・・

福祉学習というと、点字の学習をすること、車いす体験をすること、さまざまな当事者との交流体験をすることなど、いわゆる福祉に関わる体験をすることそのものが目的だという誤解があるようです。これらの取り組みは福祉について考えるきっかけにはなるかもしれませんが、ただ体験の場があるだけでは十分ではありません。意欲・自発性が高まる機会を創り出す支援者の存在が必要不可欠となります。

そこで・・・

先生方や児童・生徒を、私たち社協が応援しながら、福祉学習を進めるお手伝いを具体的に提示します。

# 福祉学習実施までの流れ



## 事前相談

ご相談に応じ、福祉学習の内容を一緒に考えます。(例：学校方針と刷り合わせながら など)

### ①打ち合わせ

- ・実施日／会場／対象者／参加人数／目的などの確認
- ・学習内容の検討
- ・当日のタイムスケジュール調整 など

例：「車いす体験学習」を含んだ福祉学習の場合 所要時間 100分（50分×2）

<p>前半：講演会（50分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小諸市内の福祉活動の紹介</li> <li>・身近にある支え合いについて</li> </ul> <p>（福祉マーク、社会福祉制度などの内容含む）</p>	<p>小諸市の取り組みや社協の活動を紹介しつつ、自分たちにできる事ってなんだろう？と、「思いやりの心」について考えるきっかけとなるよう働きかけます。</p>
<p>後半：車いす体験（50分）</p> <p>場所：体育館・廊下（校内）</p> <p>規模：30人</p> <p>車いす数：8台</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要説明 5分</li> <li>・車いす体験 35分</li> <li>・まとめ 10分</li> </ul>	<p>①概要 体験学習をする目的説明と注意事項について話します。</p> <p>②車いす体験 2人1組のペアとなり、介助する側・される側の立場で車いす体験を行います。車いすに乗ったまま、手を洗う体験等をしてもらいます。</p> <p>③まとめの時間 ワークシートを使用し、体験学習で感じたこと（良かったこと・不安だったこと・気付いたこと等）をまとめてもらいます。そして、自分には何ができるのかを考えます。</p>

### ②準備

- ・体験コースの設定
- ・児童、生徒へ福祉のイメージや質問を聞いておく など



### 当日

- ①機材の設置、体験学習の準備
- ②タイムスケジュールに沿って福祉学習を実施

※ 「思いやりの心」について考える機会となるように、働きかけます。  
体験学習の場では、社協職員は主に見守りを中心に動きます。



## 体験者の声 ～学校生徒からの感想（抜粋）～



### <講演会を聞いて>

- 「福祉」という言葉を聞いて、今まではあまり自分達には関わりのないものだろう思っていたけれど、講演会で、実際は身近なものなのだということがわかった。障がいのある方を見つけた時に「やだなー」「自分には関係ないし」と思うのではなく、すぐに手を貸してあげられる人間になりたいと思う。
- みんなが幸せに暮らすためには、思いやりがとても大事だということがよくわかった。障がいの種類もわかったし、その対策としての活動などもみれてよかったです。自分も障がいを持つ人にしてあげられることを考えていきたいし、自分もいつかは障がいを持つかもしれないので、これからしっかりと福祉について考えていきたいと思います。
- 福祉とは「普段の暮らしの幸せ」だということがわかった。「障がい」と聞くと、自分とは少し違うというイメージを持ってしまうけど、そうではないということをしかりと頭に入れておきたい。福祉に大切なことは、思いやりの心を持つことだから、その幅を広げていこうと思う。



### <車いす体験をしてみて>

- 乗っている人に不安感を持たせてはいけないので、とにかく安全に車いすを押すことが大切だと思いました。ちょっとした段差があるときなどは、段差があることや揺れることなどを、乗っている人に伝えて、声をかけて安心してもらえるようにすることが大切だと思いました。
- 押す人と乗る人の信頼関係が大切だと思った。
- 相手の気持ちになって車いすを押すことが大切だと思いました。
- 他の人の命の重さとか、大切な扱わなければならないという使命感を感じた。この使命感を大切にしていきたい。
- 車いすに乗っていると、押している人の気遣いが伝わり、嬉しかった。
- 実際に乗ってみると、水道に手が届かなかったり、目線が低くて怖かったり、結構大変なんだなと思いました。なので、車いす用のエレベーターボタンとか、そうした工夫がすごく便利だと思いました。

## 体験学習実施例



### ①車いす体験

二人一組や班ごとの体験、屋内外での体験などさまざまなスタイルが考えられます。

【体験項目】

車いすのたたみ方・ひろげ方・押し方(声のかけ方)  
ブレーキの操作方法・段差の越え方・溝の越え方・  
坂道の上り下り・階段の昇降・手を洗う など

【所持数】 7台

【実施規模】 90人

車いす体験 (中学校)



### ②高齢者疑似体験

身体にサポーターや重りをつけることにより、高齢者の感覚を体験します。身体の重さ、肘や膝の動きにくさの他、視覚の衰えを体験できます。

【体験項目】

上着の着脱・足元の物を拾う・視力の見え方を確かめる・平地の歩行・階段の昇降 など

【所持数】 2セット

【実施規模】 要相談



### ③アイマスク体験

二人一組でペアを組み、一人がアイマスクをして視覚障がい者の体験、もう一人が介助の体験を交互に行います。視覚障がい者の生活上の不便さを知ることができ、また、それ以上に介助をすることで、ボランティア活動の大切さや自分にもボランティアができることを知るきっかけとなります。

【体験項目】

平地、段差のある道の歩行(声かけ)・階段の昇降・  
椅子に座る・方角の表現方法を知る・介助の方法  
など

【所持数】 53ヶ

【実施規模】 90人

アイマスク体験 (中学校)



### ④点字体験・当事者の方の話を聴く・交流する

点字器を使用し、実際に点字に触れます。点字で読み書きを行うことで、点字を身近に感じてもらいます。また、当事者の話や体験を聴き、「障がいがあって可哀想」「大変だ」という負のイメージを大きく変えるきっかけとなります。

【体験項目】

点字器の使い方(持ち方・打ち方)・五十音順の練習  
(点字表の見方)・点字で名刺作り 当事者からの話  
など

【所持数】 63ヶ

【実施規模】 30人

点字体験 (小学校)

当事者からのお話



## 福祉体験グッズ紹介



体験活動で使用する福祉体験グッズを紹介します。障がいのある方や高齢者の方の生活を理解するための補助用具として、ご利用ください。

### ☆車いす体験

車いすに触れ、乗ってみることで、声の掛け方や押すスピードなど、相手の気持ちを考えて行動します。互いの信頼関係により、移動の安全性が確保できます。



### ☆高齢者疑似体験

体験者自身が用具を身に着けることで、高齢者の行動や動作などの変化が体験できます。

- メガネ
- 杖
- 足首おもり
- 手首おもり
- ベスト（おもり入）
- 膝サポーター×2
- 肘サポーター



### ☆アイマスク体験

アイマスクを使用し、段差の昇り降りなどを体験できます。普段利用している場所を、アイマスクをして歩くことで、普段気が付かないようなものや相手への声掛けなど新たな発見や気づきにつながります。



### ☆点字盤

点字盤を使い、実際に点字を打つ体験をします。実際に覚えるのは難しい面がありますが、点字を身近に感じてもらう良い機会となります。



# 地域福祉活動計画



「今ある支え合いを大切にし

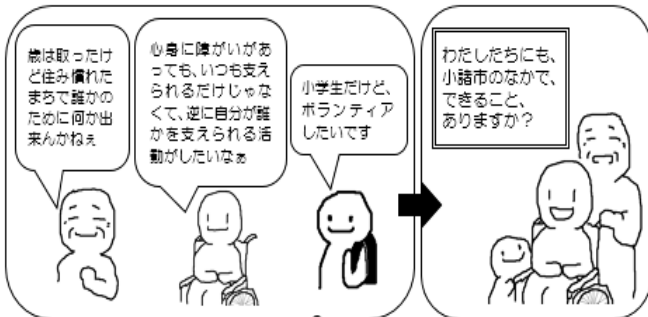
更なる地域福祉の輪を広げます」

小諸市社会福祉協議会は、「今ある支え合いを大切にし、更なる地域福祉の輪を広げます」を基本理念として、小諸市社会福祉活動計画を策定しました。この活動計画には、全部で9つの事例が掲載されています。



- ①大雪の時に助け合うことができました。これを広げていくにはどうしたらいいの？
- ②隣に住んでいるお年寄りのことが心配です。私にも何かできますか？
- ③支え合い組織を作りましたが、今後も組織を続けていけるか不安です。
- ④人の役に立ちたいけれど、何から始めればいいのか？
- ⑤ボランティア活動を続けていきたいです。どうしたらいいですか？
- ⑥障がいをもって生活していくことについて教えてください。
- ⑦誰にでもできる支え合いってありますか？
- ⑧支え合いの大切さはわかるけど、自分のことで忙しくて何もできません。
- ⑨社会福祉協議会って何をしているところなの？

## 相談7 誰にでもできる支え合いってありますか？



### 地域の方からの声

住民アンケートでは、自分にできる支え合いや、社協に期待することを聞きました。「自分にできる支え合い」は、区の行事への参加38%や隣近所の見守り活動33%を挙げる方が多くいる一方、自分のことで精一杯という方もいます。住民・団体意見交換会では、障がいの有無に関わらず地域の一員として暮らしたいという声、障がいのある人こそ地域との交流が大切という声がありました。

### ここがポイント！

- ・誰もが地域の一員で、誰かに支えられながら誰かを支えています。例えば、あなたがいるだけで元気になる人や頑張れる人もいます。
- ・「支え合い」については家族や友人と話し合うことも大切な取り組みです。
- ・誰でもいつでもできる支え合いは、相手を思いやることです。まずは、困っているかたがいれば声をかけていきましょう。

## この5年間の取り組み目標

一人一人が支え合いの一員になり、支え合いの輪を広げていきましょう

## この5年間の取り組みのために

### 社会福祉協議会は

地域の皆さんと、困りごとに関わり合い協力して支援できる体制をつくるために、勉強会を開催していきます。

私は

に取り組みます。



私たち地域は

に取り組みます。